

令和3年度 学校自己評価システムシート (県立狭山工業高等学校)

目指す学校像	心豊かで確かな学力を身に付けた、地域産業を担う技術者を育成する。
--------	----------------------------------

重点目標	1 学習習慣の確立や授業改善を通じて、生徒の基礎学力を向上させる。 2 保護者と連携して、規律ある高校生活を実現するとともに、生徒一人一人を大切に生徒指導を推進する。 3 地域への情報発信や連携を通じて、地域に根ざした学校づくりを推進する。 4 キャリア教育の充実やものづくりの技術・技能の向上、資格取得を推進し、生徒の進路希望を実現させる。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	【現状】 全く勉強しない生徒は年々減少している。(R元:19%、R2:12.7%) 試験前に自習室を利用する生徒は7割近くいる。 【課題】 欠点保有者、転退学者を減少させることが課題。(欠点保有者R2年度1学期79、2学期108、学年末42、転退学R2年度26)	自ら学ぶ姿勢を身につけさせ、基礎学力の向上を図る。	①定期考査前に自習室を開設し、自ら学習する環境を整える。試験1週間前に一斉メールで保護者に通知しているが、加えて試験3日前にもメールし、家庭の協力を仰ぐ。 ②きめ細やかな指導で学力の向上を図る。	①自習室の利用70%以上(昨年度68.5%) ①授業以外で全く勉強しない生徒12%以下(昨年度12.7%) ②優良者100人以上(昨年度1学期90、2学期77) ②欠点保有者1学期70、2学期100以下(昨年度1学期79、2学期108)		
2	【現状】 特別生徒指導件数が減少し学校は落ち着いてきている。昨年度は不正行為防止を目標とし、不正行為0を達成した。 【課題】 登下校指導により交通ルールを守る意識が高まり、近隣からの苦情は減少しているが、交通事故が数件発生していることが課題である。	生徒指導件数、交通事故を減少させるため、学校の生活環境を整える。	①保護者と連携し、整容指導、登下校の交通安全指導を行う。 ②学校行事や部活動等に積極的に取り組ませる。 ③合理的配慮を必要とする生徒への支援方法を入間わかくさ高等特別支援学校コーディネーターより学ぶ。	①特別指導件数4件以下(R元:8、R2:5) ②部活動加入率80%以上(R2:77.2%) ③コーディネーターから学んだ支援方法を職員会議で報告し、全体で共有する。		
3	【現状】 ホームページのアクセス数も、本校からの情報提供数も年々増加している。 【課題】 受検希望者数の増加につながっていないことが課題である。	本校の魅力をアピールし、理解してもらう。	①ホームページを利用して本校の特色、魅力等の発信を行う。 ②学校説明会等で本校の良さを伝える。 ③中学校等を訪問し、工業高校を理解してもらう。	①ホームページのアクセス数。(3月31日、1,538,904) ②学校説明会等の参加者数、合計400名以上。(昨年度345人) ③中学校、市で開催する説明会等に10回以上参加する。(昨年度5回)		
4	【現状】 進路決定率は高い水準を維持している。 【課題】 コロナ禍で、求人数の減少が見込まれる中、就職希望者の進路実現達成が課題である。	学校・生徒・保護者間の進路に関する情報共有を進める。	①保護者と情報共有を行いながら、組織的な進路指導を行う。 ②資格試験情報を一斉メールで保護者に伝える。学校では、担任、学科から声掛けを行う。	①就職、進学共に希望者の合格率100%。(R2:就職100%、進学92.9%) ②資格取得延べ400名以上。(R2:340名)		

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	